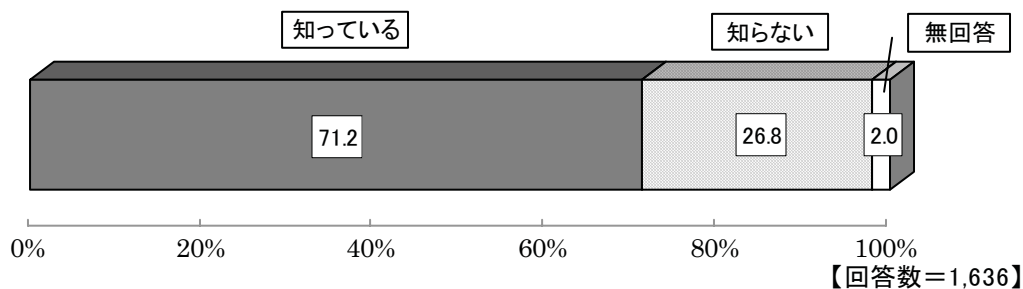


5. 住宅用火災警報器について

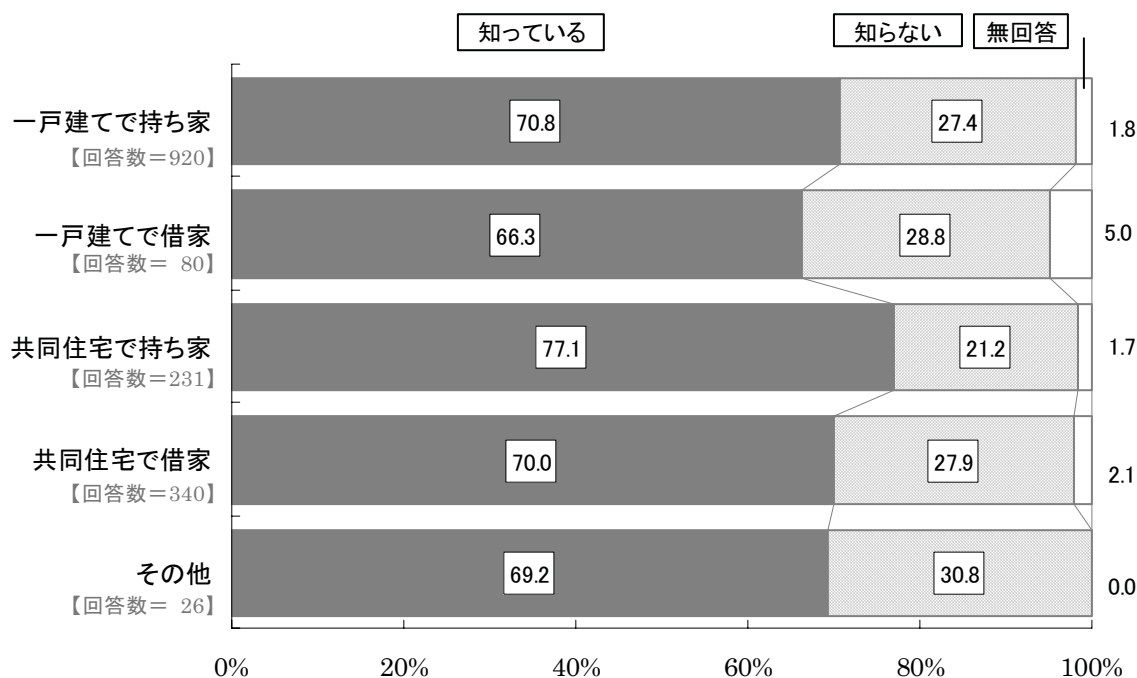
問14 あなたは、「住宅用火災警報器」の設置が義務化されたことをご存知ですか？（○は1つだけ）

図 5-1 住宅用火災警報器の義務化の認知度



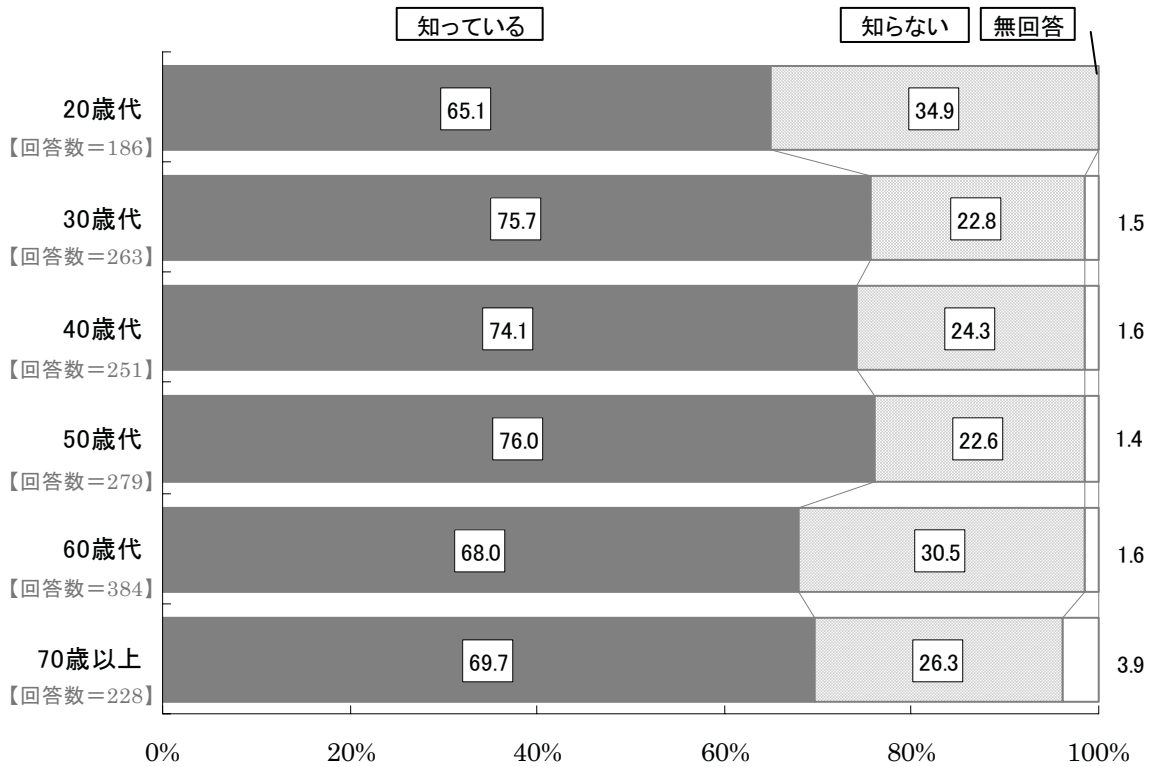
『住宅用火災警報器』の設置が義務化されていることの認知度をたずねた。「知っている」が71.2%、「知らない」が26.8%となっている。（図5-1）

図 5-2 住居形態別 住宅用火災警報器の義務化の認知度



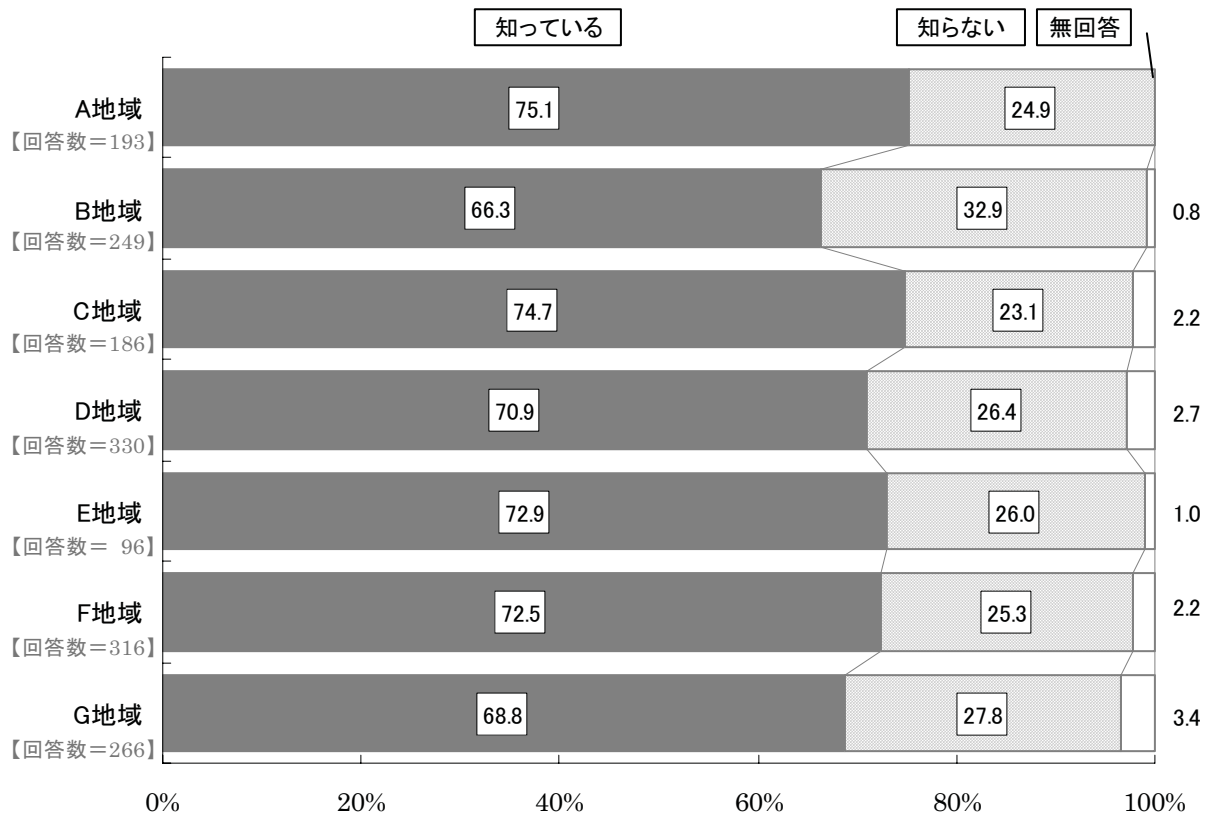
住居形態別にみると、「知っている」は、共同住宅で持ち家が77.1%、一戸建てで持ち家が70.8%、共同住宅で借家が70.0%となっている。（図5-2）

図 5-3 年代別 住宅用火災警報器の義務化の認知度



年代別にみると、「知っている」は、50歳代が76.0%と最も高く、次いで30歳代が75.7%、40歳代が74.1%となっている一方、20歳代は65.1%と低くなっている。(図5-3)

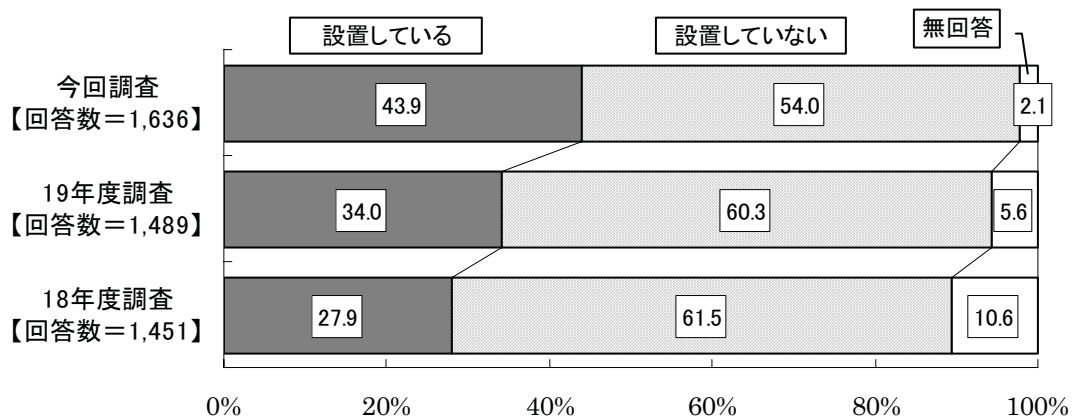
図 5-4 地域別 住宅用火災警報器の義務化の認知度



地域別にみると、「知っている」は、A地域が75.1%と最も高く、次いでC地域が74.7%、E地域が72.9%となっている一方、B地域は66.3%と低くなっている。(図5-4)

問15 あなたのお住まいには「住宅用火災警報器」は設置されていますか？（○は1つだけ）

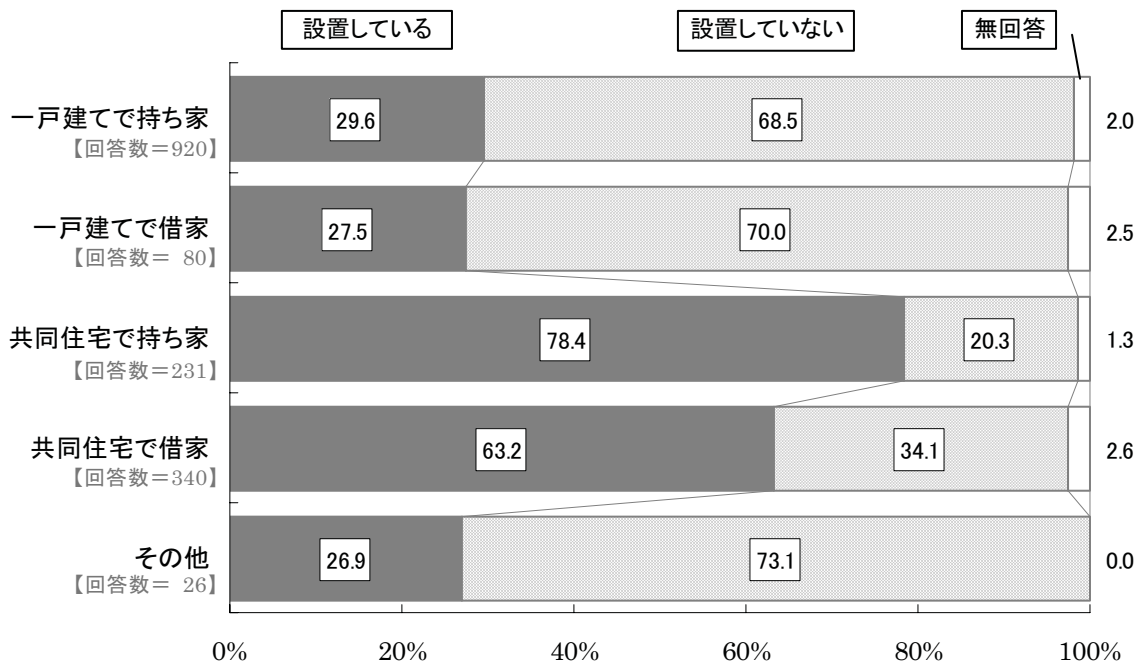
図 5-5 住宅用火災警報器の設置状況



『住宅用火災警報器』の住まいへの設置状況をたずねた。「設置している」が43.9%、「設置していない」が54.0%となっている。

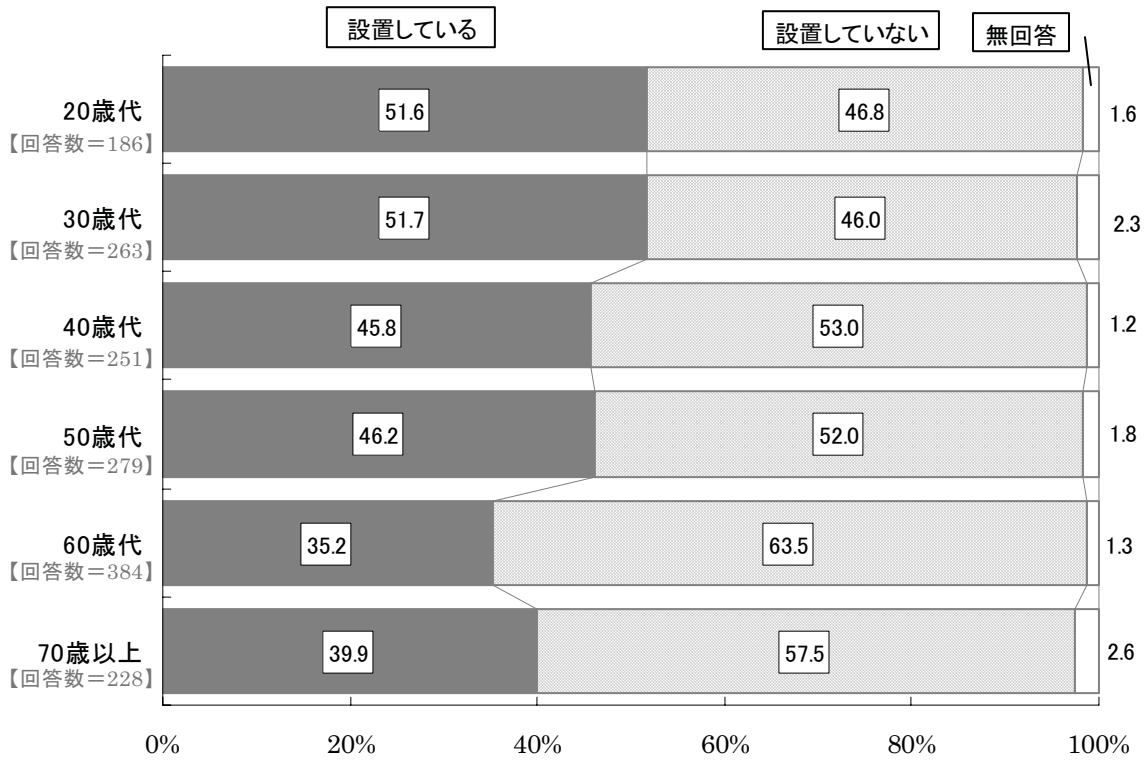
18年度調査・19年度調査と比較すると、「設置している」が18年度（27.9%）、19年度（34.0%）に比べそれぞれ16.0ポイント、9.9ポイント上回っている。（図5-5）

図 5-6 住居形態別 住宅用火災警報器の設置状況



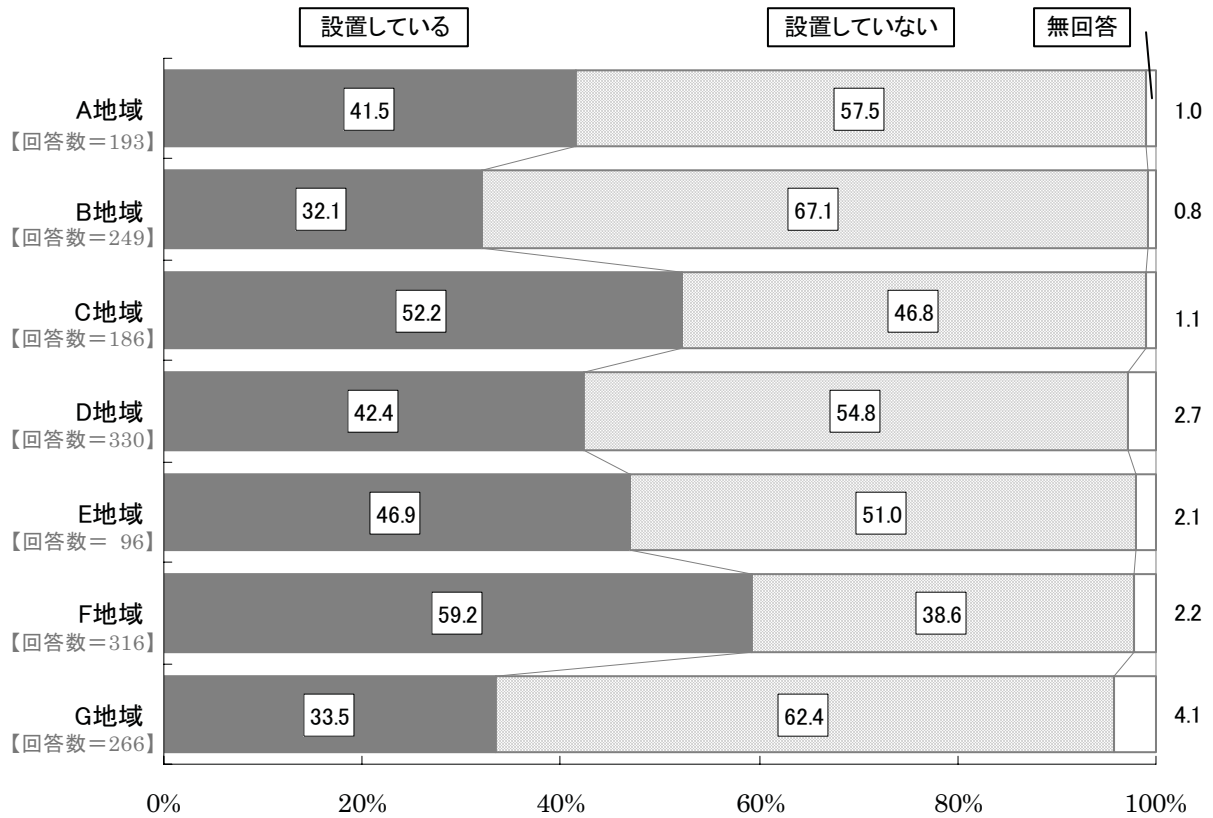
住居形態別にみると、「設置している」は、共同住宅で持ち家が78.4%と最も高く、次いで共同住宅で借家が63.2%、一戸建てで持ち家が29.6%となっている。（図5-6）

図 5-7 年代別 住宅用火災警報器の設置状況



年代別にみると、「設置している」は、30歳代が51.7%と最も高く、次いで20歳代が51.6%、50歳代が46.2%となっている一方、60歳代は35.2%と低くなっている。(図 5-7)

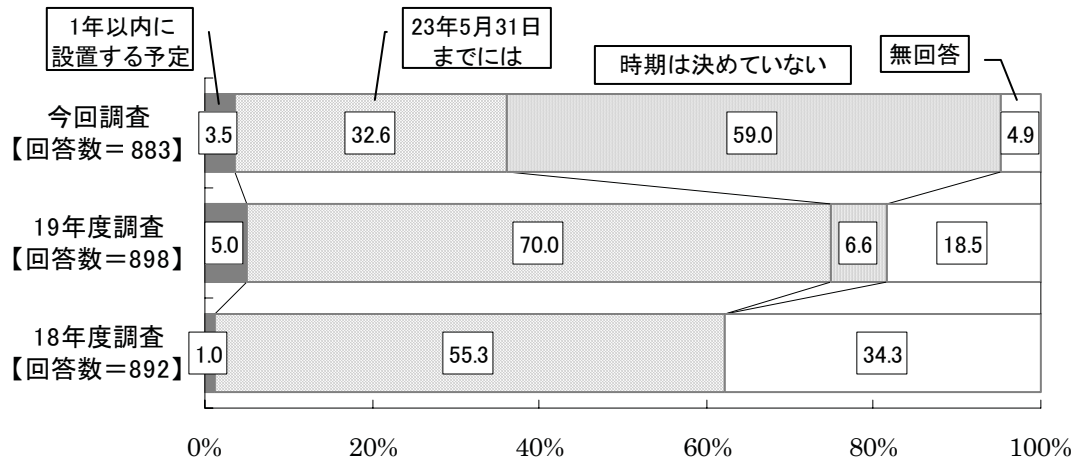
図 5-8 地域別 住宅用火災警報器の設置状況



地域別にみると、「設置している」は、F地域が59.2%と最も高く、次いでC地域が52.2%、E地域が46.9%となっている一方、B地域は32.1%と低くなっている。(図5-8)

問 15-1 問 15 で「2 設置していない」に○印をつけた方におたずねします。「住宅用火災警報器」をいつごろ設置される予定ですか？（○は1つだけ）

図 5-9 住宅用火災警報器の設置予定時期

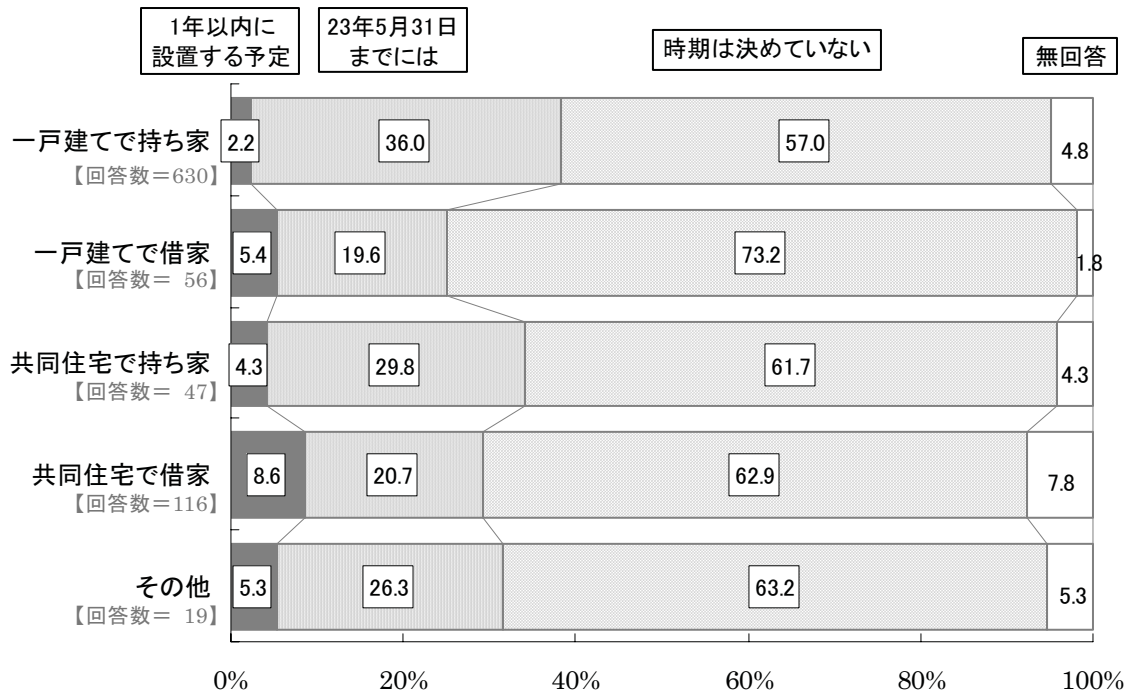


※19年度調査の“その他”を「設置する時期は決めていない」として、また“2年以内に設置する予定”と“3年以内に設置する予定”を「未定だが、平成23年5月31日までに設置する」に集約して読み替えている。
 ※18年度調査の“2年以内に取り付ける予定”と“3年以内に取り付ける予定”・“4年以内に取り付ける予定”を「未定だが、平成23年5月31日までに設置する」として読み替えている。

『住宅用火災警報器』を設置していないと答えた人に、今後の設置予定時期をたずねた。「設置する時期は決めていない」が59.0%と最も高く、次いで「未定だが、平成23年5月31日までに設置する」が32.6%、「1年以内に設置する予定である」が3.5%となっている。

18年度調査・19年度調査と比較すると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、「未定だが、平成23年5月31日までに設置する」が下回っている。（図5-9）

図 5-10 住居形態別 住宅用火災警報器の設置予定時期

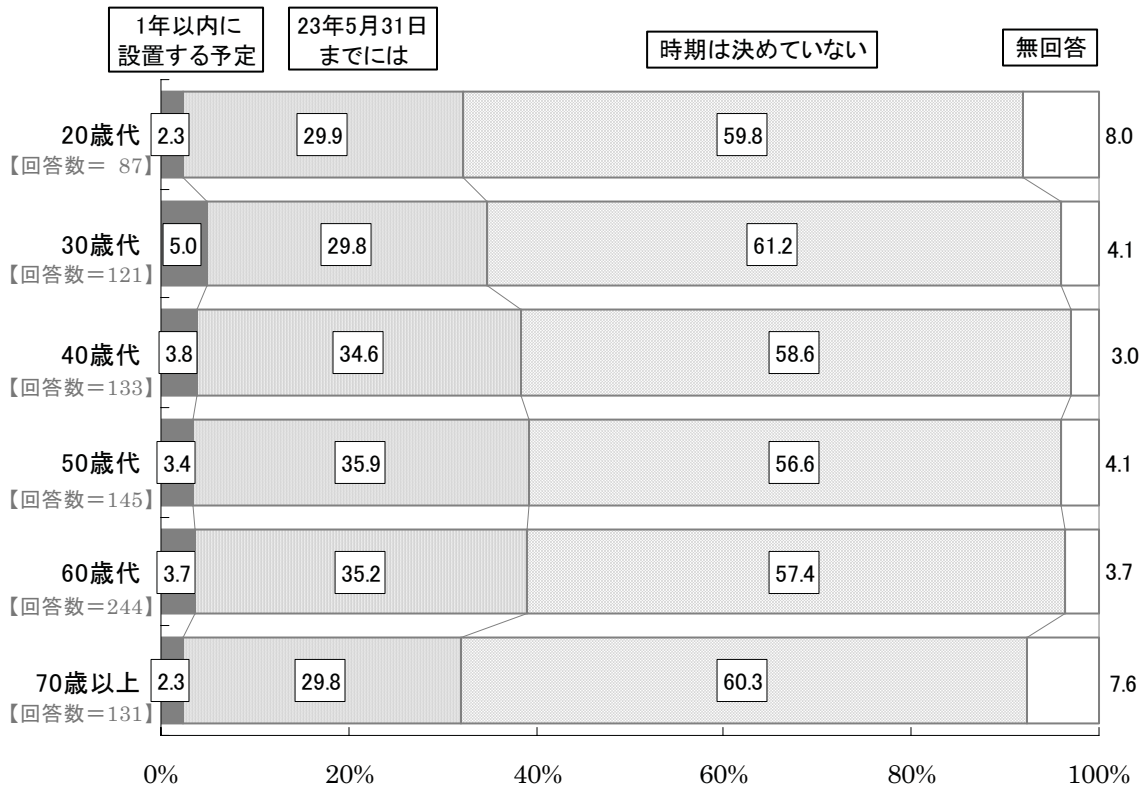


住居形態別にみると、「設置する時期は決めていない」は、一戸建てで借家が 73.2%と最も高い一方、一戸建てで持ち家は 57.0%と低くなっている。

「未定だが、平成 23 年 5 月 31 日までには設置する」は、一戸建てで持ち家が 36.0%と最も高い一方、一戸建てで借家は 19.6%と低くなっている。

「1 年以内に設置する予定である」は、共同住宅で借家が 8.6%と最も高くなっている。(図 5-10)

図 5-11 年代別 住宅用火災警報器の設置予定時期

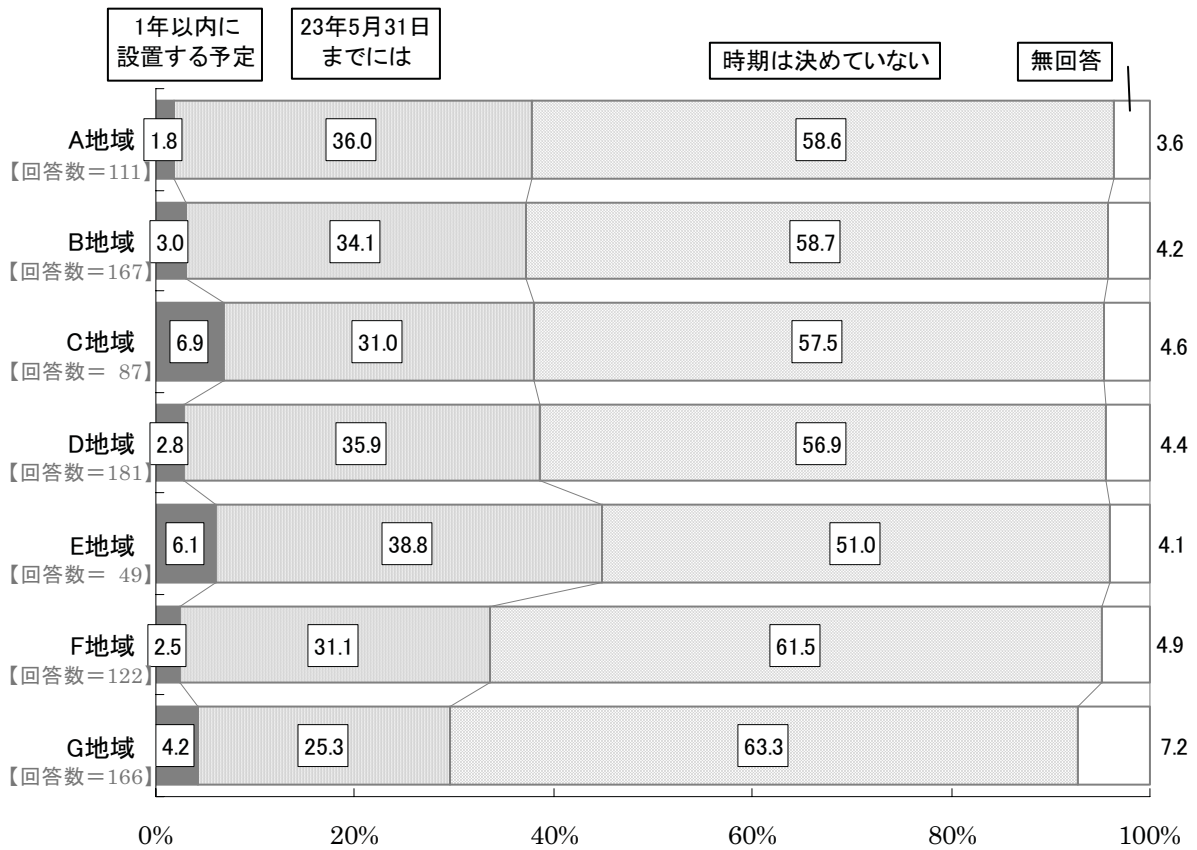


年代別にみると、「設置する時期は決めていない」は、30歳代が61.2%と最も高く、次いで70歳以上が60.3%、20歳代が59.8%となっている一方、60歳代は57.4%と低くなっている。

「未定だが、平成23年5月31日までに設置する」は、50歳代が35.9%と最も高く、次いで60歳代が35.2%、40歳代が34.6%となっている一方、30歳代と70歳以上はともに29.8%と低くなっている。

「1年以内に設置する予定である」は、30歳代が5.0%と最も高くなっている。(図5-11)

図 5-12 地域別 住宅用火災警報器の設置予定時期



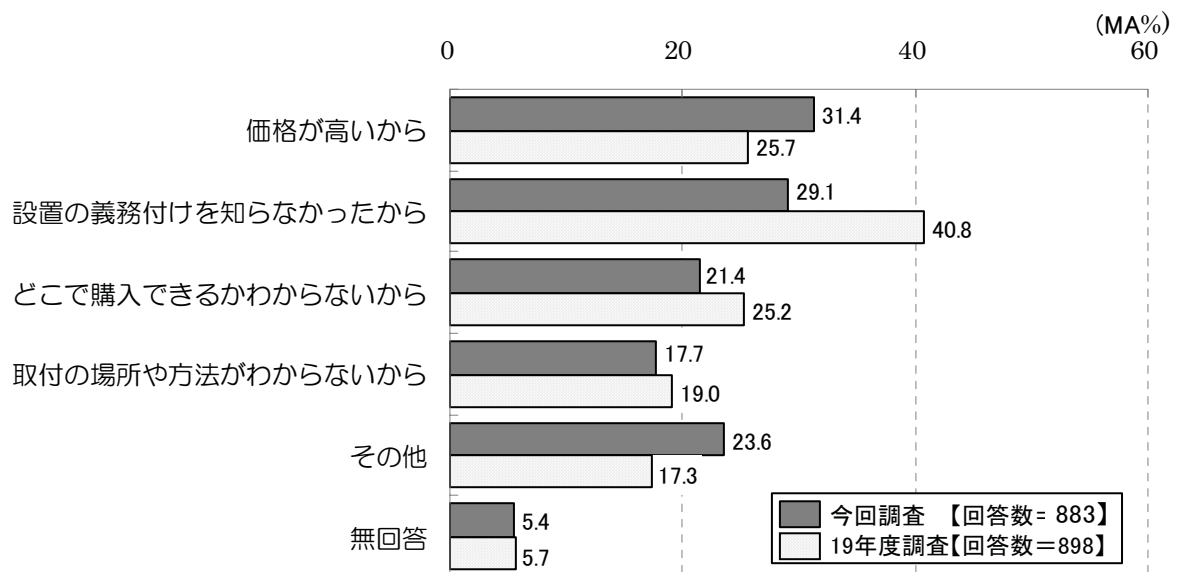
地域別にみると、「設置する時期は決めていない」は、G 地域が 63.3%と最も高く、次いで F 地域が 61.5%、B 地域が 58.7%となっている一方、E 地域は 51.0%と低くなっている。

「未定だが、平成 23 年 5 月 31 日までに設置する」は、E 地域が 38.8%と最も高く、次いで A 地域が 36.0%、D 地域が 35.9%となっている一方、G 地域は 25.3%と低くなっている。

「1 年以内に設置する予定である」は、C 地域が 6.9%と最も高くなっている。(図 5-12)

問 15-2 問 15 で「2 設置していない」に○印をつけた方におたずねします。「住宅用火災警報器」をまだ設置されていない理由は何ですか？（○はいくつでも）

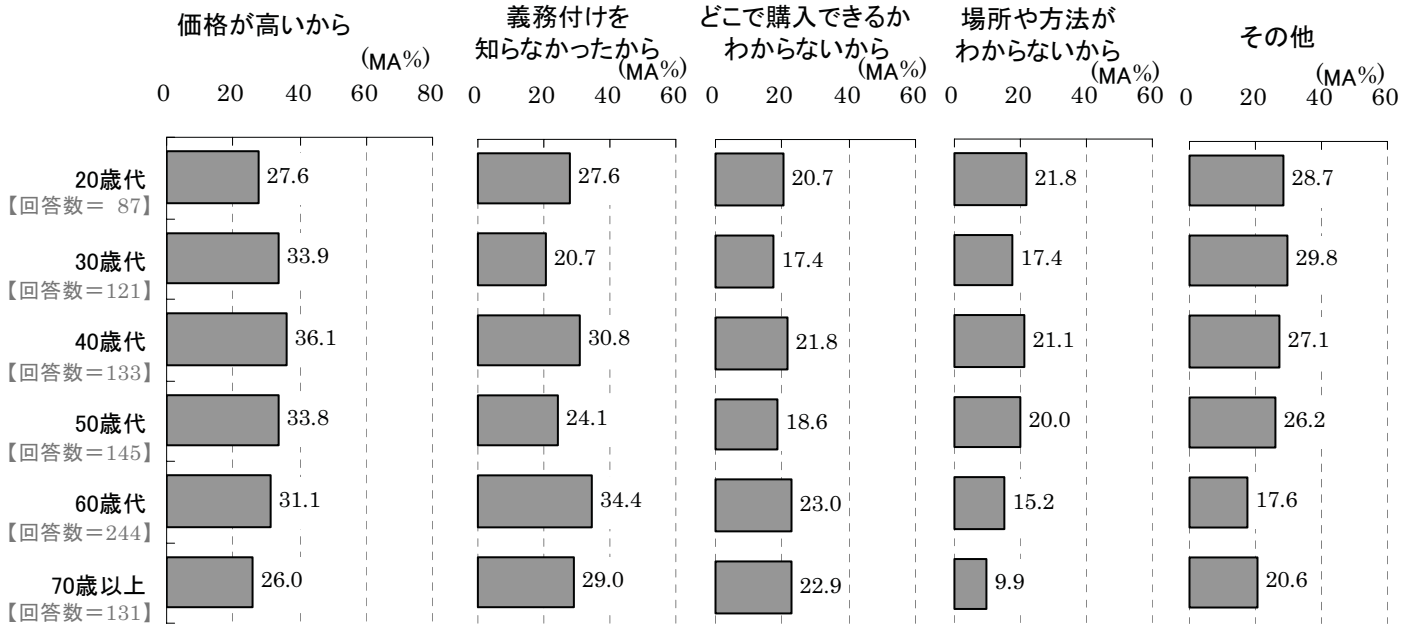
図 5-13 住宅用火災警報器を設置していない理由（複数回答）



『住宅用火災警報器』をまだ設置していない理由をたずねた。「価格が高いから」が 31.4% と最も高く、以下、「設置が義務付けられていることを知らなかったから」(29.1%)、「その他」(23.6%)、「どこで購入できるかわからないから」(21.4%)、「取り付け場所や取り付け方法がわからないから」(17.7%) となっている。

19 年度調査と比較すると、「設置の義務付けを知らなかった」は 11.7 ポイント、「どこで購入できるかわからない」は 3.8 ポイント下回っており、「価格が高い」は 5.7 ポイント上回っている。(図 5-13)

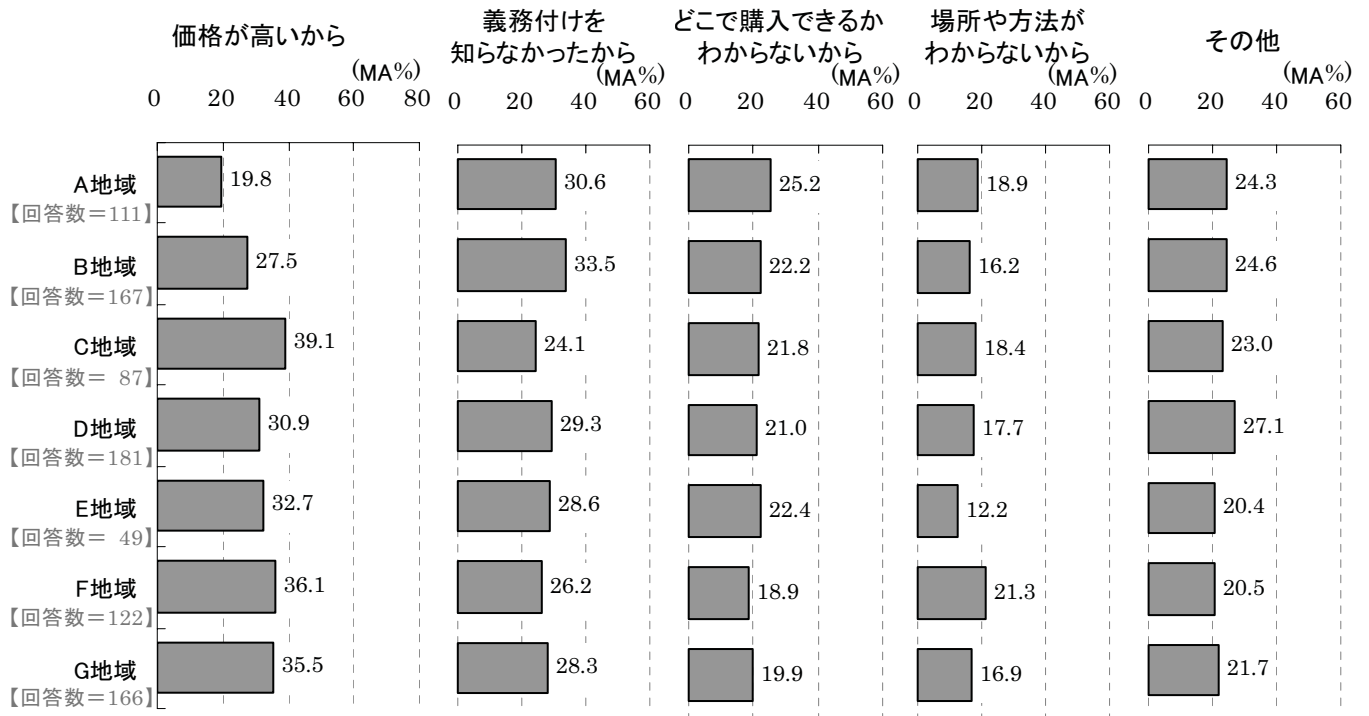
図 5-14 年代別 住宅用火災警報器を設置していない理由（複数回答）



年代別にみると、「価格が高いから」は、40歳代（36.1%）が高い傾向にあり、70歳以上（26.0%）と20歳代（27.6%）は低い傾向になっている。

「設置が義務付けられていることを知らなかったから」は、60歳代（34.4%）が高い傾向にあり、30歳代（20.7%）は低い傾向になっている。（図 5-14）

図 5-15 地域別 住宅用火災警報器を設置していない理由（複数回答）



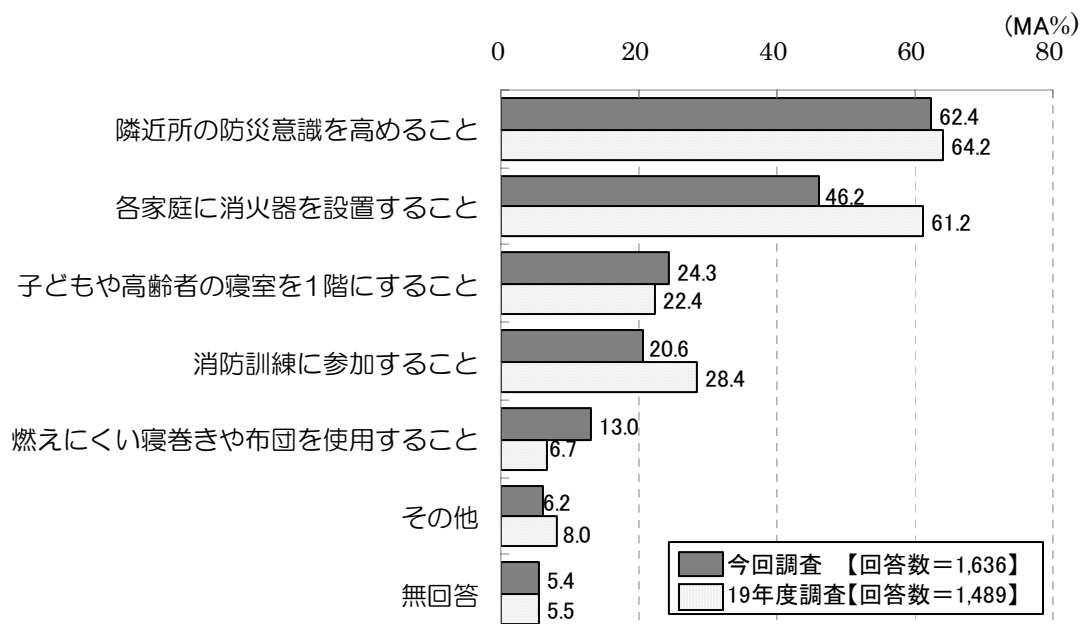
地域別にみると、「価格が高いから」は、C 地域（39.1%）は高い傾向にあり、A 地域（19.8%）は低い傾向にある。

「設置が義務付けられていることを知らなかったから」は、C 地域（24.1%）が低い傾向にある。

「取り付け場所や取り付け方法がわからないから」は、F 地域（21.3%）と高い傾向にあり、E 地域（12.2%）は低い傾向にある。（図 5-15）

問 16 住宅火災によって、毎年千人を超える人が亡くなっています。住宅火災で亡くなる人を減らすために、「住宅用火災警報器」の設置以外に、あなたは、どのようなことをすればよいと思いますか？（〇はいくつでも）

図 5-16 住宅火災で亡くなる人を減らすための方法（複数回答）



『住宅用火災警報器』の設置以外で、住宅火災で亡くなる人を減らす方法をたずねた。

「日頃から、隣近所の防災の意識を高めること」が 62.4%と最も高く、以下、「各家庭に消火器を設置すること」(46.2%)、「子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること」(24.3%)、「消防訓練に参加すること」(20.6%)、「燃えにくい加工をした寝巻きや布団を使用すること」(13.0%) となっている。

19 年度調査と比較すると、「各家庭に消火器を設置すること」は 15.0 ポイント、「消防訓練に参加すること」は 7.8 ポイント下回っている。また、「燃えにくい加工をした寝巻きや布団を使用すること」は 6.3 ポイント上回っている。(図 5-16)

図 5-17 年代別 住宅火災で亡くなる人を減らすための方法《上位 5 項目》（複数回答）

		問 16 住宅火災で亡くなる人を減らすための方法 (MA%)				
		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
年代別	20 歳代 【回答数=186】	隣近所の防災意識を高めること 62.9	各家庭に消火器を設置すること 46.8	消防訓練に参加すること 23.7	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 21.5	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 19.9
	30 歳代 【回答数=263】	隣近所の防災意識を高めること 62.4	各家庭に消火器を設置すること 41.4	消防訓練に参加すること 24.3	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 13.3	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 10.6
	40 歳代 【回答数=251】	隣近所の防災意識を高めること 66.9	各家庭に消火器を設置すること 38.2	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 21.5	消防訓練に参加すること 19.9	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 13.9
	50 歳代 【回答数=279】	隣近所の防災意識を高めること 63.1	各家庭に消火器を設置すること 49.5	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 23.7	消防訓練に参加すること 16.8	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 10.8
	60 歳代 【回答数=384】	隣近所の防災意識を高めること 64.1	各家庭に消火器を設置すること 49.7	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 26.8	消防訓練に参加すること 19.8	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 9.9
	70 歳以上 【回答数=228】	隣近所の防災意識を高めること 53.9	各家庭に消火器を設置すること 50.0	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 38.6	消防訓練に参加すること 20.2	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 16.2

年代別に上位 5 項目をみると、すべての年代で「日頃から、隣近所の防災の意識を高めること」が第 1 位、「各家庭に消火器を設置すること」が第 2 位となっている。

20 歳代と 30 歳代は、「消防訓練に参加すること」が第 3 位となっており、その他の年代は「子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること」が第 3 位となっている。(図 5-17)

図 5-18 地域別 住宅火災で亡くなる人を減らすための方法《上位 5 項目》（複数回答）

		問 16 住宅火災で亡くなる人を減らすための方法 (MA%)				
		第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
地域別	A 地域 【回答数=193】	隣近所の防災意識を高めること 60.6	各家庭に消火器を設置すること 46.1	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 24.4	消防訓練に参加すること 18.7	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 16.1
	B 地域 【回答数=249】	隣近所の防災意識を高めること 66.7	各家庭に消火器を設置すること 49.0	消防訓練に参加すること 22.5	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 20.5	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 12.0
	C 地域 【回答数=186】	隣近所の防災意識を高めること 61.8	各家庭に消火器を設置すること 49.5	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること／消防訓練に参加すること 23.1		燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 15.1
	D 地域 【回答数=330】	隣近所の防災意識を高めること 60.9	各家庭に消火器を設置すること 48.8	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 23.3	消防訓練に参加すること 19.7	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 11.5
	E 地域 【回答数=96】	隣近所の防災意識を高めること 63.5	各家庭に消火器を設置すること 43.8	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 35.4	消防訓練に参加すること 18.8	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 17.7
	F 地域 【回答数=316】	隣近所の防災意識を高めること 60.4	各家庭に消火器を設置すること 42.7	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 23.1	消防訓練に参加すること 22.8	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 12.0
	G 地域 【回答数=266】	隣近所の防災意識を高めること 63.9	各家庭に消火器を設置すること 43.2	子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること 27.1	消防訓練に参加すること 17.7	燃えにくい寝巻きや布団を使用すること 11.3

地域別に上位 5 項目をみると、いずれも第 1 位は「日頃から、隣近所の防災の意識を高めること」、第 2 位は「各家庭に消火器を設置すること」となっている。

C 地域は、「子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること」と「消防訓練に参加すること」がともに第 3 位となっており、B 地域は「消防訓練に参加すること」、その他の地域は「子どもや高齢者の寝室を 1 階にすること」が第 3 位となっている。(図 5-18)